

視察報告書

報告者氏名：伊関 功滋

委員会名：環境教育常任委員会

期 間：令和5年10月18日（水）～10月20日（金）

視察都市等及び視察項目：

厚木市：教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンター
について

新見市：インクルーシブ教育について

福岡市：夜間ごみ収集について

所 感 等：

◆厚木市

面 積：93.84km²

人 口：224,058人（令和5年10月1日現在）

世帯数：104,921世帯

市制施行：1955年2月1日

◆厚木市：教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンター について

厚木市では、教育情報ネットワークに関するサーバ群を、コロケーションデータセンターに配備することにより、安全性の高い環境下で同ネットワークの運用管理を実現している。同データセンターでは、サーバ稼働障害時の影響の甚大化を未然に防ぐため、瞬電対策が施され、自家発電装置も設置されており、常に電源を確保することが可能な状態となっている。

◆今回、厚木市の先進事例をお聞きして、データセンターの役割は時代とともに変化をしようとしていると感じた。クラウドの技術が発達したため、将来的にはクラウド管理に移行を検討していると説

明を受けた。本市でも同様に次期選定はクラウド管理を検討していると聞いている。

現状の厚木市では、教育システムと基幹システムを分けて管理をしているが、本市でも同様に対応している。コストについては、単純に比較はできないが、自前対応の本市のほうがコストはかかっているように感じた。現状のシステム管理は厚木市の優位性を感じた。



児童生徒のG I G Aスクール対応は、教育システムと切り離し管理をされていた。個人情報の管理の部分では、割り切っていることもあったが、タブレットP Cの持ち帰りは推奨しているようで、子供たちの教育を優先していた。本市では、責任区分の問題で自宅に持ち帰ることは推奨まではしていないが、今後は必ず、対応することになるので、どうせ行うなら厚木市のように考えてもよいかと思う。

◆新見市

面積：793.29 km²

人口：26,762人（2023年9月末現在）

世帯数：12,643世帯

市制施行：1954年（昭和29年）6月1日

◆新見市：インクルーシブ教育について

新見市では「誰もが通って良かった」「通わせて良かった」と思える学校を実現するためには、子どもたち一人一人が輝く学校・園づくりが重要と考え、新見市特別支援教育推進センターにおいて、市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校と連携し、インクルーシブ教育システム構築のため、特別支援教育の充実を目指している。

◇新見市の教育基本理念

「ふるさとを愛し、未来を拓くたくましい人づくり」

◇新見市特別支援教育推進センターの取組

・通級による指導

○ 通級指導教室（ことばの教室）での指導

- 通級による指導の拡充に向けた調査研究、情報収集
- ・ 特別支援教育のセンター的機能
 - 教職員の指導力向上に向けた取組
 - 市内保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の巡回相談
 - 効果的な指導・支援についての情報発信や連携体制の構築
 - ケース会議や校内研修等への参加
 - 小学校特別支援教室（学びの教室）との連携
- ・ 教育相談・就学相談・発達検査
 - 教育相談員及び相談員の配置
 - 保護者相談、発達検査の実施
 - 福祉関係部局や支援者との連携
- ◇ 新見市のインクルーシブ教育の基本的な方向性
インクルーシブ教育システムにおいて、「同じ場所で共に学ぶことを追求」「教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供」できる柔軟な仕組みを整備している。また、連続性のある「多様な学びの場」の準備を推進している。
- ◇ 特別支援教育の現状からの課題と解決策
「手厚い個別の支援」「個別の指導」を重視する傾向が課題
適切な指導・必要な支援により、
 - ・ 特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくり
 - ・ 学びの場の見直し、交流及び共同学習の推進を行うことが重要で、
 - 「通常の学級での学びの可能性」が広がる支援
 - 通常の学級で「共に学ぶ」ことを追求
 - 「多様な学びの場」の整備、適切な場の選択を行う必要性がある。

◆ 今回、新見市のインクルーシブ教育について説明を受け、現場を視察させていただいた。率直に本市と比較してインクルーシブ教育への取組が非常に進んでいると感じた。市民からの相談でも障害のある児童生徒に対して、普通級がいいとか、支援級がいいとの話になることがよくある。教育委員会や校長先生と相談すると子ども達一人ひとりに違いがあり色々難しいとの話を聞いてきた。しかし新見市では、通常の学級で共に学ぶこと、多様な学びの場を提供する

ことを実践されていた。確かに細かい課題はあるかと思うが、本人にとっても周りの子どもにとっても良い環境のように感じた。特に、現場を視察させていただいた通級による指導については非常に良い形で運営されていた。本市でも実施できたらと思う。恐らく、教員の人数の課題があるかと思うが実践に向けて検討をして欲しい。また毎年、忙しい教員の中から本市に所在する独立行政法人国立特別支援教育総合研究所に教員を派遣されているとのことだった。研修を受けた教員は大きな戦力になるとのことで、本市も連携の強化は必要かもしれない。



◆福岡市

面積：343.47km²

人口：1,642,571人（令和5年10月1日現在）

世帯数：871,300世帯

市制施行：1889年4月1日

◆福岡市：夜間ごみ収集について

福岡市では、市制施行以前から民間により家庭ごみの収集を行っていた。また、1961年からは、全国でも珍しいごみの夜間収集を開始しており、収集はすべて民間業者によって行われている。日没後から深夜12時までに各自が家の前にゴミを出す戸別収集を実施し、市民の満足度は97.8%と非常に高い。夜間収集（夜12時～）は収集車が渋滞にかかることがないため、移動がスムーズであり、カラスの被害も受けない。また、戸別収集はゴミ出しの負担が軽くなるというメリットもある。一方で、分別の種類を多くするとコストや環境負荷の増加につながるため、最小限の4分別でゴミを集め、後で分ける方法をとっている。

◇夜間収集

・メリット

- ①都市美観に貢献 昼間にごみ袋がない
- ②昼間の交通渋滞を緩和

③カラスによる被害を抑制

④街頭犯罪を抑止

・デメリット

①ごみ収集時の騒音

収集車両の走行音や巻き込み音やバック時のかけ声など

対策：集音マイクを車両の後方に設置・バックモニターの設定

②分別意識の低下

人目がなくルールが守られにくい

対策：ルールが守られていないごみは理由を明示し、収集は行わない

◇戸別収集

・メリット

① 排出者が分かりやすく、分別ルールや排出時間が守られる

② 集積場の管理が必要ない

③ 高齢者や身体の不自由な方もごみを出しやすい

・デメリット

①作業時間が長くなる

対策：運転手、作業員2人の3人で収集

②車両の大型化ができず、必要台数が多いため、CO2 排出量が多い

対策：今年度末よりFCパッカー車を導入予定

◇ごみ袋の有料化

燃えるごみ(可燃ごみ)と

燃えないごみ(不燃ごみ)共に

サイズ 大(45L) 中(30L) 小(15L)

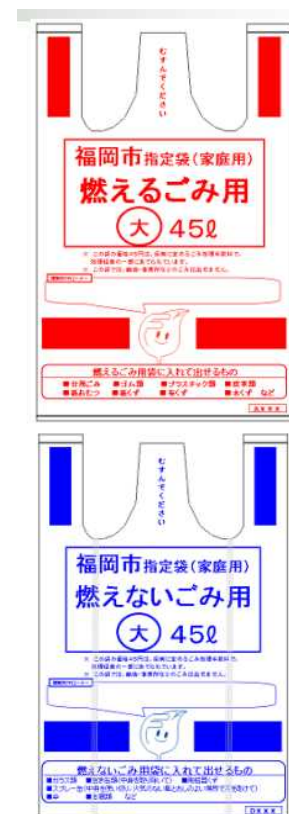
1枚あたり 45円 30円 15円

空きびん・ペットボトル

サイズ 大(45L) 中(30L)

1枚あたり 22円 15円

◆今回、福岡市の夜間ごみ収集についてお話を伺った。全国でも珍しい夜間収集事業で、当初、事業を始めてから夜間収集だったため、市民も特に問題はないとのことだった。確かにメリットは多くある



が、本市で現状から変更をした場合、かなり課題が出てくるかと感じた。メリットの昼間の交通渋滞の緩和やカラスによる被害の抑制は、非常に魅力的では



あるが、本市で導入した場合の課題も大きい。市民の賛同を得て、夜間収集に移行できれば課題の改善が見込めるが、谷戸の多い本市では騒音の問題や高齢者の対応、戸別収集を実施した場合は担当の事業者の選定などの問題は避けられないかと感じた。また、ごみ袋の有料化についても導入されており、戸別収集と一緒に行うことができれば、本市でも導入の可能性はあるのではないかと。今後本市では、人口減少・少子高齢化がさらに進展していく中で、ごみ収集事業を継続していく上でもメリット、デメリットを考え、夜間収集も含めて検討していかなければならないと思う。

以上